



麻しん・風しん混合(MR)ワクチンの 予防接種をうけましょう！

麻しんと風しんは、感染力が強く、特別な治療法がない病気です。
麻しん・風しんにかからないための唯一の方法は予防接種を2回接種することです。

★定期接種対象者★

- [1期] 生後12～24か月に至るまで(2歳誕生日前日まで)
[2期] 小学校就学前の1年間(年長児の4/1～翌年3/31迄)

※対象期間以外は任意接種となり1万円程度の自己負担がかかります。

1回接種のみでは免疫がつかないことや、免疫が持続せずに麻しんにかかってしまうことがあります。
2回の接種で97～99%以上の方に免疫が付きまます。

★接種場所★

委託医療機関

※予約の有無や持ち物を事前に確認してください。委託医療機関はこちら→



★持ち物★

母子健康手帳、予防接種手帳など



新型コロナウイルスの影響で無料での接種期間を延長しているワクチンがあります。母子健康手帳を見直し、接種漏れが無いかご確認ください。

大阪市 予防接種の最新情報



麻しん風しん混合(MR)ワクチンの接種間隔

注射生ワクチン(BCG・麻しん風しん・水痘など)を接種後に異なる注射生ワクチンを接種する場合は、中27日以上の間隔をあける必要があります。

麻しん風しん混合(MR)ワクチンの副反応

1回目の接種後2週間以内に発熱(13%)や発しん(3%)がみられますが、通常は1～3日で治ります。2回目の接種では、発熱や発しんの頻度は極めて低くなります。まれに脳炎や脳症(100万～150万人に1人以下)がおこることがあります。

麻しん(はしか)ってどんな病気？



感染力がきわめて高く、予防接種をしないとほとんどの人がかかる病気です。感染して回復するまで約7～10日間と長いため、身体への負担が強く、合併症によって10人に1人は入院することがあります。

感染経路と潜伏期間

患者のせきやくしゃみに含まれる麻しんウイルスにより空気感染、飛沫感染、接触感染します。潜伏期間は約10～12日です。

症状

主な症状は発熱、せき、鼻水、目の充血、発しんです。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたあと、再び高熱と発しんが出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失します。

合併症

気管支炎、中耳炎、肺炎、脳炎があり、患者の中で、中耳炎は100人に7～9人、脳炎は1,000人に1～2人の割合で発生がみられます。また、数年から10数年経過した後に発症する亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という慢性に経過する脳炎は、10万人に1～2人発生します。さらに麻しんにかかった人は1,000人に1人の割合で死亡します。

風しん(三日ばしか)ってどんな病気？



発しんや発熱が3日程度で治ることが多いので「三日ばしか」ともいわれます。妊婦が妊娠初期に風しんにかかると、先天性風しん症候群(先天性心疾患、白内障、難聴など)の子どもが生まれる可能性が高くなります。妊娠中の女性は、予防接種を受けることができません。妊娠前に予防接種を受けておくことが大切です。また、男性や周囲の方も風しんにかかって妊婦に感染させないように予防接種を受けておくことを考慮する必要があります。

感染経路と潜伏期間

患者のせきやくしゃみに含まれる風しんウイルスにより飛沫感染します。潜伏期間は約14～21日です。

症状

主な症状は麻しんより淡い色の赤い発しん、発熱、首の後ろのリンパ節がはれるなどです。その他に、せき、鼻水、目の充血などの症状がみられることもあります。

合併症

関節痛、血小板減少性紫斑病、脳炎が報告されています。患者の中で、血小板減少性紫斑病は約3,000人に1人、脳炎は約6,000人に1人ほどの割合で発症します。大人になってからかかると、子どもの時より重症化する傾向がみられます。

【お問い合わせ先】 各区保健福祉センター

大阪市保健所感染症対策課 TEL 06-6647-0813 FAX 06-6647-0803 (令和6年6月作成)